

決スル方法ヲ發見セリ。

之ヲ要スルニ、掛谷君ノ研究ハ、多クノ學者ノ研究ノ結果ヲ綜合統一シタノミナラズ、多クノ方面ニ新ニ研究ノ領域ヲ拓キタルモノニシテ、數學ノ發展上ニ貢獻スル所頗ル大ナルモノナリ。

### 文學博士高野辰之君著「日本歌謠史」ニ對スル授賞審査要旨

本書ハ我國歌謠ノ史的發達ヲ叙述スルヲ以テ目的トナシ、著者ハ先ズ歌謠トハ曲節ヲ付シテ詠ズル韻文ニシテ、文學ノ一部ヲナスト共ニ音樂ノ一部ヲナシ時ニ演劇舞蹈トモ提携スルモノナリト定メ、ソノ發達ヲ上古時代、外來樂謳歌時代、内外樂融和時代、邦樂發展時代、邦樂大成前半時代、邦樂大成後半時代、邦樂革新時代ノ七時代ニ分テテ論ジ、各時代ニ於ケル歌謠ヲ分類シ、ソノ内容、形式、曲風等ニ就テノ詳細ナル説明ヲ施シ、殊ニ各時代ノ聯繫ヲ明カニシテ、系統的記述ヲ行フニ意ヲ用ヒタルモノアリ。

上代ヨリ近世ニ至ル我歌謠ノ史的叙述ヲ目的トスル本書ノ如キハ、材料ノ豊富ナルヲ要シ、且ツ從來未ダ開拓セラレザル諸方面ノ事柄ニモ研究ヲ進ムルノ要アルハ云フ迄モナキ所ナリ。著者ガ博ク史籍記錄ヲ搜索シテ、歌謠曲譜ノ遺存セルモノヲ蒐集セル努力ハ頗ル見ルベキモノアリ。ソノ新ナル研究ニ屬スルモノ悉ク餘蘊ナシト迄ハ云フ能ハザルモ、論旨ノ當ヲ得タルモノ甚ダ多シ。今ソノ殊ニ注意スベキモノヲ擧ゲンニ、例ヘバ七七五調七七五形ノ成立ノ起原ヲ明カニスルハ、歌謠ノ變遷ヲ攷フル上ニ於テ殊ニ重要ノ事ニ屬シ、著者ノソレニ關スル議論ハ頗ル詳細ニシテ、ソノ所説明カニ從來ノ學

ラザルモノトヲ判定スルニ、反歌ヲ有スルモノト有セザルモノトノ相違ニ依ルト論ズル如キハ、著眼ノ説ニ數歩ヲ進メタルモノアリト云フベシ。萬葉集ノ歌謠ノ條ニ於テ、集中ノ長歌ノ謠ハレタルモノト否凡ナラザルモノナリ。佛會歌謠ノ條ニ於テ幾多ノ新資料ヲ採集シテノ論究ハ殊ニ新シキモノニテ、就中和讚ニ關スル研究ハ詳密ヲ極メタリ、此種ノ研究ハ資料蒐集ノ困難ナルコト佛敎ニ關スル豫備知識ヲ必要トスルノ故ヲ以テ、從來國文學者間ニモ手ヲ下シタルモノナカリシニ、著者ガ能ク百難ヲ排シテ眞摯ノ研究ヲ遂ゲ、以テ顯著ナル效果ヲ擧ゲタリシハ多トスベシ。能樂ノ起原ヲ而及樂器ノ上ヨリ考察シテ、以テ伎樂トノ關係ヲ論ズル如キモ卓見ニシテ、ソノ論定ノ爲メニ擧ゲタル證據ハ有力ナルモノ多シ。淨瑠璃ノ發生ヲ平語ノ警師ニ求メタル如キモ、從來ノ議論ニ擢ンデタルモノアルヲ認ム。

此書ハ概シテ近世ヨリモ古代ノ討究ニ於テ斬新ニシテ見ルベキモノ多ク、著者ノ古代歌謠ノ討究ニ對スル努力ノ非凡ナルハ殊ニ賞讚ニ値ヒス。近世歌謠ノ討究ニ於テモ、幾多錯雜セル事實ヲ一々整理シ、組織ヲ立テ、論述シタルガ如キ、亦他ニ多クノ比ヲ見ザル所トス。

之ヲ要スルニ、我國ノ歌謠ニ關シテハ、從來著述ナキニアラザルモ、ソノ多クハ斷片的又ハ概説的記述ニシテ、全般ニ亘リテ詳述セルモノハ殆ド全ク是レナキ状態ナリシニ、著者ガ偉大ナル努力ト周密ナル用意トヲ以テ、此ノ如キ系統的論述ヲナシタルノ功績ハ顯著ナリト云フベク、ソノ學界ヲ裨益スルコト多大ナルハ明白ナリトス。

正誤表

頁	行	正	誤
二〇	終リヨリ七	窮メテ極	テ
三	〃	縱横	〃
四	二	函數論	〃
五	〃	テニシテ	〃
六	三	困難ナルト	ナリ
六	〃	一行ヲ二行ニ二行ヲ一行ニ改ム	〃
七	〃	シタルノミ……シタルノミ……	〃
七	二	多クソノ多ク	〃
九	〃	50.8	50.5
〇	七	トコト	ヨロ
〃	七	炭素問	炭素問
二	四	モノアリト	モノアリト